

は、滿洲事變直後流行的に發生した國家社會主義、國民社會主義の如き、無産階級陣營よりの脱落分子を中心とするが如き形態から離れて、軍部政權の確立を目指して進むが如くである。

かゝる經濟的政治的動向の中にあつて、大衆はインフレによる物價吊上げ、失業の深化、實質賃銀の低下、労働強化、軍事的負擔の加重のために、二重三重の生活苦を嘗め、全國的に著しい大衆の不安動搖が暗流してゐる。しかも、資本家階級の社會政策乃至労働對策は、ファツシヨ的氣運に乗じて益々反動化してゐる。

(三) 我國労働運動の情勢

過去一ケ年間の労働運動を顧みるとき、我等は、數點の特徴を見出す。

その一つは、滿洲事變直後簇生せる國家社會主義、國民社會主義の系統に屬する諸運動の慌はたゞしい凋落と、それに引換へて、日本主義、國家主義を標榜する運動の出現である。このことは、一面では國家社會主義が早くも矛盾と反動的正體を曝露したことを示し、他面では、ファツシヨの労働者層への働きかけが漸く本格的となつたことを意味する。

その二つは、全國産業團體聯合會によつて統制される資本家の對労働政策が著しく整備され、その反動的な現はしたることである。即ち、彼等は一切の社會政策、労働立法の改

廢、制定に反對して労働運動の開拓の途を阻止すると共に、自ら、御用組合主義に依り大工場大企業を抑へ、労働組合の進出を妨止する。

その三つは、反動の重壓下に、從來の信念と根柢なき運動が急速に轉向没落したることである。日本共産黨及びその影響下の轉向續出、白梅「合法左翼」一派の行詰りと右翼轉向等はそれだ。

その四つは、本流的労働運動の統一強化が促進せられたことである。昨年結成された日本労働組合會議と社會大衆黨は一年間を通じて着實に發展して來た。この陣營は、我國大多數の労働組合を包含し、常に大衆に密着しつつ、資本の攻勢に抗して戦ひ、今や、唯一の大衆の階級的陣營として立つてゐる。

その五つは、インフレと社會的變動により大衆の生長性が著しく刺戟せられつゝあることである。これは殊に、大工場大企業への労働組合の進出の途を必然ならしめるであらう。

(四) 全國労働の運動概観

我が全國労働は創立以來こゝに四年、恰も世界恐慌勃發の只中に闘争の歩武を進み入れたが、この間常に大衆的階級的立場を高揚し、政治經濟の日常闘争に、また陣容の擴大強化と戦線統一に邁進して來た。途中クラブ問題、ファツシヨ問題等によつて内紛を生じたが、しかも、凡ゆる組合を通じて

終始一貫立場を變へず、今日では陣容を統一強化し、反動の重壓下に大衆の保身として立つてゐる。

我等の過去一年間の活動を顧みると、組織勢力七聯合會、四十細谷四萬二千餘名に對して、その陣容の整備のために努力し、争議に於ては、インフレ闘争を敏速果敢に指導し、日本労働組合會議を通じての戦線統一強化、社會大衆黨と協力して政治勢力の擴大に努め其他、教育活動共濟的分野の開拓に何れも相當の成績を収めた。今後は更にこの線を強く押し進めることが重要である。即ち(一)ファツシヨ粉碎、戦争の危機に對する闘争の強化、(二)陣容の整備充實と政治、經濟戦線の統一強化、(三)労働立法、社會立法の改正並に獲得のための積極的闘争、(四)組合内の共濟施設の擴充並に協同組合運動との積極的協力、(五)インフレ闘争其他非常時日常闘争の遂行はその主なるものである。